

委託事業実施内容報告書

平成23年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語指導者養成】

受託団体名 大阪府教育委員会

1 事業の趣旨・目的

日本語学習教室等の支援者や関心のある人を対象に、日本語指導のノウハウを学ぶ機会を提供し、新たな教室設置や教室拡充等に携わる人材の育成を図る。語学学習だけでなく、学習者と地域とのつながりをサポートするなど総合的な支援を行うことのできる人材を育成する。

2 運営委員会の開催について

【概要】

| 開催日時 | 開催場所 | 出席者 | 議題 | 会議の概要 |
|-------|------------------|---|--|--|
| 8月31日 | 大阪府新別館北館職員会議室7、8 | 太原 敏 森田 光弘 大久保 章 西本 和子 宮田 潤 赤井 毅彦 山上 清 石田 俊彦 野海 房幸 三宅 克英 北村 正和 田村 幸子 | ・日本語学習指導者リーダー養成研修の進捗確認について ・読み書き会話教室パートナー・ビギナー研修の企画について | ・講座参加者の感想等を共有し、問題を整理する。 ・受講者を拡大するため、日程、会場、講師及び効果的な案内のあり方について協議した。 |
| 2月9日 | 大阪府庁本館第2共用会議室 | 金 輝美 太原 敏 森田 光弘 岡本 龍三 大久保 章 橋本ヒサ子 中村 渚 赤井 毅彦 | 各講座のふりかえり | 受講者アンケートの分析を行い、今後の支援者拡大に向けて解決すべき課題を整理した。 |

| | | | | |
|--|--|---|--|--|
| | | 山上 清 石田 俊彦 野海 房幸 三宅 克英 北村 正和 田村 幸子 | | |
|--|--|---|--|--|

【写真】

3 養成講座の内容について

- (1) 講座名 c 読み書き会話教室 パートナー・ビギナー研修
 (日本語学習指導者養成研修)
 d 日本語学習指導者リーダー養成研修
 (地域日本語学習ボランティア講座)
- (2) 目標
- c 日本語教室での学習支援活動に興味、関心がある人を対象に、今の日本語教室の現状や、これからの教室や指導者に求められることなどについて学び、活動への不安を解消し、意欲を高める。
- d 地域日本語学習において何を大切にすべきか、対人援助はいかにあるべきか、おとなの学習で抜きにできないのは何か、日本語指導の専門家でない市民が日本語学習を支援する意義はどんなところにあるかなどを考えていく。さらに成人の日本語教室を支援するために必要な日本語や日本文化に関する知識を得るとともに、地域日本語のあり方について考えていく。
- (3) 受講者の総数 c 65人 d 48人
 (出身・国籍別内訳 c 不明 d 不明)
- (4) 開催時間数(回数) c 14時間 (7回)
 d 37時間 (16回)
- (5) 参加対象者の要件
 日本語教室での学習支援活動に興味、関心がある方、教室で支援をされている方
- (6) 受講者の募集方法
 府および再委託先である識字・日本語研究会のホームページに募集案内を掲載。さらに府内市町村を通じて各識字・日本語教室等にチラシを配付した。
- (7) 会場
 c 堺市立人権ふれあいセンター、熊取町公民館、堺市立国際交流プラザ、泉大津市役所

- d 大阪教育大学 天王寺キャンパス
大阪府立中之島図書館 文芸ホール
大阪府咲洲庁舎 会議室

- (8) 使用した教材・リソース
講師による自主作成教材

- (9) 講座内容

- c 読み書き会話教室 パートナー・ビギナー研修(日本語学習指導者養成研修)

| 日時 | 講座名／学習内容 | 講師 | 受講者数 |
|------------------------------|---------------------|---|------|
| 10月29日 (土) 10:00~12:00 | 今の日本語教室に 求められること | 大阪教育大学 教授 長谷川 ユリ | 44人 |
| 11月12日 (土) 13:30~15:30 | はじめよう！日本語 習得支援① | 大阪産業大学 教授 新矢 麻紀子 | 24人 |
| 12月10日 (土) 13:30~15:30 | はじめよう！日本語 習得支援② | 大阪大学 特任助教 新庄 あいみ | 19人 |
| 12月18日 (日) 10:00~12:00 | 市民による日本語習 得支援 | 大阪大学 教授 西口 光一 | 17人 |
| 12月24日 (土) 10:00~12:00 | 日本語指導と識字学 級 | 堺識字・多文化共生学級 講師 大井 真基子 大阪市よみかき茶屋 講師 森 尚 | 24人 |
| 1月28日 (土) 10:00~12:00 | 日本語教室の意義と 果たす役割 | NPO 法人おおさかこども 多文化センター 副理事 安田 乙世 | 31人 |
| 3月6日 (火) 10:00~12:00 | 支援者対象の研修 | 堺市 担当者 | 15人 |

d 日本語学習指導者リーダー養成研修(地域日本語学習ボランティア講座)

| 日時 | 講座名／学習内容 | 講師 | 受講者数 |
|-----------------------------|---|----------------------------------|------|
| 7月16日 (土) 13:30～16:00 | 地域日本語学習という【場】で大切にしたいこと | とよなか国際交流協会 事務局長 榎井 縁 | 25人 |
| 7月23日 (土) 10:00～16:00 | 「出会い」と「気づき」のボランティア～地域日本語学習活動における対人援助のあり方(その1)～ | ホリスティック教育 研究所 HEAL 所長 金香百合 | 23人 |
| 7月30日 (土) 10:00～16:00 | 多文化をふまえたかわりあい、支え合いとは？～地域日本語学習活動における対人援助のあり方(その2)～ | ホリスティック教育 研究所 HEAL 所長 金香百合 | 22人 |
| 8月6日 (土) 13:30～16:00 | 成人学習の理論～おとなの学習について研究は何を教えているか？～ | 大阪教育大学 教授 森 実 | 19人 |
| 8月27日 (土) 13:30～16:00 | 日本語学習とよみかきの学習～大阪における日本語・識字活動の展開～ | 大阪教育大学 教授 森 実 | 19人 |
| 9月3日 (土) 13:30～16:00 | 台風で中止 | | |
| 9月10日 (土) 13:30～16:00 | 市民による日本語習得支援 | 大阪大学 教授 西口光一 | 19人 |
| 9月10日 (土) | 日本語教室訪問 (八尾市高砂日本語 | 大阪教育大学 教授 森 実 | 9人 |

| | | | |
|------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------------|-----|
| 13:30~16:00 | 教室) | | |
| 9月24日 (土) 13:30~16:00 | ふりかえりと未来への展望 | 大阪教育大学 教授 森 実 | 21人 |
| 10月15日 (土) 14:00~15:30 | 外国語としての日本語教育 | 大阪教育大学 教授 長谷川 ユリ | 29人 |
| 10月22日 (土) 14:00~15:30 | 日本語と韓国・朝鮮語を比較する① | 大阪教育大学 准教授 若生 正和 | 22人 |
| 10月29日 (土) 14:00~15:30 | 日本語と韓国・朝鮮語を比較する② | 大阪教育大学 准教授 若生 正和 | 17人 |
| 11月12日 (土) 14:00~15:30 | 異文化間コミュニケーション① | 大阪教育大学 准教授 中山 あおい | 16人 |
| 11月19日 (土) 14:00~15:30 | コミュニケーションのための日本語文法 | 大阪樟蔭女子大学 教授 有田 節子 | 16人 |
| 11月26日 (土) 14:00~15:30 | 異文化間コミュニケーション② | 大阪教育大学 准教授 中山 あおい | 11人 |
| 12月3日 (土) 14:00~15:30 | 日本語学習者が求めていること —かしわら日本語教室の取り組みから— | 大阪教育大学 講師 かしわら日本語教室 講師 井ノ口智佳 | 14人 |
| 12月10日 (土) 14:00~15:30 | 地域日本語学習活動と日本語教育 | 大阪教育大学 教授 長谷川 ユリ | 13人 |

(10) 講座の評価

①受講生に対するアンケート

毎回の講座終了後の「コミュニケーションカード」や最終回の全回を通してのアンケートによって、受講者の意見や感想を聴取した。

- c これから始めようとする人が多く、講座を通して、日本語に関する新たな気づきや外国人等のニーズに合わせた支援方法などを学び、支援者として行動を始めるモチベーションを高めることができたといった感想が多く見られた。
- d すでに教室等での支援経験者が多く、日本語学習支援のさらなるスキルアップのための学びがあったこととともに、実際の活動の中での疑問や不満などを解消するための情報を得ることができたことに対する評価が高かった。

②実施主体からの研修内容結果評価

- c これからボランティアを始めたいという人の不安を解消し、意欲を高めるという目標を達成することができた。具体的な活動へつなげていく仕組みと合わせていけばさらに効果的である。
- d 対人援助のあり方について改めて学ぶ講座を企画したことにより、地域日本語学習支援のあり方を受講者が再考することができた。併せて受講者の日常活動の成果や課題を交流する機会となり、支援者としてのレベルアップを図ることができた。

③実施主体からの外国人支援体制等今後の計画

日本語習得を必要とする学習者と地域とのつながりをサポートする総合的な支援をさらに進めていくための人材育成を継続する。

(11) 事業の成果

① 他事業との連携

日本語学習支援等を必要とする子どもの課題と合わせて解決していくため、家庭教育支援に関する事業と連携する。

② 研修後の人材活用

これから活動を始めたい人については、活動できる教室、さらなるスキルアップ研修や交流などの紹介をする。

現在すでに活動している人については、支援者のリーダーとして、新たな人材育成の取組みなどへの参画を依頼する。

(12) 今後の課題

外国人学習者のニーズの多様化に応じて、さらに支援者の拡大を図るため、同様の講座を継続し、受講者が実際の活動に参画していくことができる仕組みを構築する。

また経験豊富な支援者がつながる組織作りを行い、地域の外国人等への支援を推進する活動の活性化を図る。

